



今号のトピックス～副代表ご挨拶

- P1 今号のトピックス 堰口 義明
P2 仲間たちの近況報告
1 班 山田 茂美
4 班 梅谷 晴男
P3 私の玉手箱 鶴 敏子
P4 樹木ウォッチング 遊上 眞一
P5 絵画コーナー
木邨 圭子 藤原 雄平
P6 写真コーナー 倉本 敏明
P7 短歌・俳句・川柳コーナー
山上 恵子 宮澤 富美雄

◇自然と文化だより◇

戦後80年

生まれた時は栄養失調の乳児脚気でよれよれだったようだが、記憶にはない。ものごとろついてからひどい思いはせず、戦後の平和を満喫しながら70幾年かをすごしてきた。戦争反対といってもどこか遠い国のことで本当の切実感はないのではないか。そんな我々の世代はうまくいけばこのまま逃げ切ることができそう。けれど孫の時代はどうだろう？一部政治家たちの発言やSNSで炎上しているという話題を聞くと、どうにも危うい。もはや戦後でなく戦前だという声もある。理想を幻想だと切り捨て、都合の悪い真実はなかったことにする。幸福と共感・連帯ではなく不安と対立・分断を原動力とする大きな集団意識が形作られつつあるようだ。いやいや人ごとではない。これが戦争という最大の悲劇のあとに生を受けた我々が70幾年かけて作ってきた世界にほかならない。このまま逃げ切れるかもしれない。けれど孫たちは・・・

tsukashara



公開講演会 PJ チームリーダーになって

副代表 堰口 義明

私は 2022 年に自然と文化科に入科して副班長を 2 年やらせていただき、2024 年に班長になりました。その時公開講演会 PJ チームのサブリーダーをお引き受けしました。この時公開講演会部外者の申し込み受付をしたのですが、まだ fax の受付をやっており、家の fax もまだ動いておりましたので、E-mailならそのまま受理しましたと返信すればいいのですが、受信番号に返信の fax をしても相手方の fax が受信できませんと返信してきて、固定電話に電話をしても留守電にもなっておらず連絡できないこともあり。それで後に fax での申し込みはやめてもらいました。また公開講演会の常連さんが箕面公開観察会にリーダーで行った時に声をかけていただき、お会いすることもあり、楽しかったです。2025 年に公開講演会 PJ チームリーダーを引き継いでくれませんかと言われたので、サブリーダーに先輩が入ってくれ、班長を何方かやって頂けるのならとお引き受けしました。また、いつの間にやら副代表にもなっておりました。まず最初は 4 月公演の奈良教育大学の渡邊先生の司会から始まり、緊張の為中々スムーズな司会が難しかったです。今まであまり予習もしなかったのですが、前もってレジメに目を通しどのような質問をすればいいか考えるようになりました。講演が終わればお礼の mail を書きます。また皆さんの反応によっては来年の講演のお願いもします。5 月の田中先生の講演は 1 年前から予定が入っていて休まなければならなかったもので、西村さんをお願いしました。また、6 月公演の藤井先生に講演テーマ、要旨依頼を行い、7 月の筒井先生との面談約束も取らなければならませんでした。8,9 月の「自然と仲間」の原稿は 7 月末には提出しなければならず、目の回る思いでした。この様な忙しい内容を西村さんは長いことやってこられたのは大変感謝しなければならなかったと感じました。また、自然と文化科の公開講演会は 2004 年からずっとコロナ禍での活動中止の時以外続けてこられたことは大変ご苦勞されたことと思います。素晴らしい宝物を残していただいたことに諸先輩方に感謝し、現自然と文化科科員皆が力を合わせて継続発展させていくことを願いたいと考えております。

私のEXPO2025

1班 山田 茂美

私は自分では万博世代と思っている。1970年の大阪万博のときはちょうど多感な中学生。あの時、輝ける未来が目の前に広がっていた。その万博が再び大阪で開かれる。うれしい気持ちもあるけれど今さらこの時代に意義があるのかという迷いもあった。

しかし、4月開幕後すぐに家族と1回、6月に友人と1回行くと、むらむらと万博独特の高揚感がよみがえってきた。友人の誘いもあり、夏休みパスを買った。猛暑の中、毎回ヘロヘロになりつつも万博会場へ行っている。

その中で印象に残るのはクウェート館。実は今回クウェート館を訪れたとき、瓶に入った砂漠の砂を持って行った。それは55年前の大阪万博のクウェート館に展示してあった砂を持ち帰ったものである。長い間、家宝として家の棚の奥深くしまわれていた。それを今回、クウェート館に持って行き、スタッフに見せた。



インタビューを受けた。

そのインタビューの動画はきっと、クウェートのテレビニュースで流れ、私はクウェートでは有名人だと自分で思っている。

連日の暑さの中、毎回、修行のような万博訪問ではあるが、いろいろ楽しい経験もできた。明日（8月28日）夏休み最後の万博に行ってきます。

夏の中央ヨーロッパ旅行

4班 梅谷 晴男

以前から妻にハンガリー(ブダ・ペスト)の国会議事堂、王宮の夜景を見せたいと思っていたので中欧州ドイツ、チェコ、オーストリア、スロバキア、ハンガリー5カ国の旅に出ました。

ドイツでは、危険よりも自由を求めベルリン壁を越える人の姿と壁の破壊によりドイツ人、ドイツ国が一つになる情熱を共感しました。要塞門から税関壁門と様変わりしたブランデンブルク門や戦禍から再生したドレスデン城や旧市街地に歴史の重厚さ、戦争の愚かさを学びました。

チェコのブラハ城一部が大統領公邸の為、衛兵の交代式を見ることが出来ました。城からの眺めが圧巻でした。カトリック教会内は厳かで、天井画やステンドグラスがとても素晴らしい。モルダウ川に架かるカレル橋上には笑い、怒り、悩み、苦しみ、思考する人々の彫像群が私の心身を捉えた。

ウィーンではシエーンブルン宮殿の豪華さ、庭園の広さにハプスブルク帝国権勢を実感させられた。ベルベデール宮殿のクリムト等々の絵画に人の移ろいを見ました。街角にはダンサーが踊り、若い音楽家がバイオリンやチェロを演奏し合う様を見たり小雨降雨中、カフェでカフェラテ等飲みながら妻とゆっくり会話を楽しみました。

スロバキア首都ブラチスラバの小さな街並みに小さな各国大使館や小さな教会、リストなどの音楽家の小像があり、身近な親しみを感じました。

ハンガリーの王宮や国会議事堂、ブダ・ペストの街並みを30年ぶりに再会しましたが、王宮等の建物修理や再建工事中の最中でした。大理石に覆われた王宮が哀れな姿でした。街中は以前同様に落書き多くあり残念でした。最後の夜、ドナウ川のクルージングで輝き煌めく王宮や国会議事堂、ブダ・ペストの街夜景を妻に見て貰うことが出来感謝しました。1995年阪神淡路大震災の様子を私はリスボンでテレビ画面で見ました。

歩行者信号の切り替わりが早く、私たち高齢者には小走りでするには大変でした。旅行中の気温は穏やかで大阪より5℃ぐらい涼しく快適でした。栄光の王家や苦悩の音楽家、芸術家など人の営みと安らぎは、労働と憩い、信頼と努力などから産み出されている世界に愛着を感じた旅でした。

人生 100 年時代を楽しんで

4 班 鶴 敏子

人生 100 年時代を幸せに全うする為にはどこを「人生のピーク」に設定していくかが重要だと思っています。

「何をピーク」に設定するかは人それぞれに違いますが、目標を設定し、それを実現した時に人は人生のピークを迎えていると思っています。

私は 60 才の時に、ある事がきっかけで目標を設定し、それに向けて楽しく努力したいと考えていました。

環境の語り部を目指して 2005 年 4 月に入学した「すいたシニア環境大学」を卒業後、持続可能な自然を求めて 20 年間色々な体験をしてきました。

難しい「環境概論」「地球温暖化とヒートアイランド」「その対応と私達の生活」「大気・水環境の保全」「循環型社会を目指して自然と人とのかかわり」「都市の自然」「都市の景観」とか。

その中でも、すいた森のサポーターとして、滋賀県高島市「もくもくの里」の森の水源の木道づくりは楽しかったです。杉の丸太の皮を剥ぐことから始まり、バケツで池の泥のかき出しや石運びと肉体労働の数々。吹田市民から募った命名板を取り付けて作業は終了です。

又労働後の楽しみのバーベキューは格別でした。



朝の観察会

葉柄内芽の説明

2006 年 11 月 5 日実施

そこからは、先輩たちが立ち上げた「すいた環境学習協会」に入会し、ちきゅう組・みどり組・まち組のグループで活動することになりました。



100 名を超す組織で、市民や小・中・高校への学習支援や社会貢献の活動をするには適した団体でした。（18 年間の実績を残し解散となりました。これも高齢化が進んできた結果です）

吹田市や企業から助成金を頂きながら吹田市の公園に樹木名板を毎年 100 枚掛けてきました。



白塗装をし、彫刻で名前を彫り黒の文字を入れる

これをもとに吹田市「はなとみどりの情報センター」からの依頼で市民向けの公園ガイドが始まりました。

万博記念公園のガイドでは、5 才の子供さんから質問があったり、大人顔負けの知識を披露された時はビックリしたり、頼もしく思ったりしました。



月にも一度のガイドで担当に当たれば大変ですが、市民の方から公園を散歩していて、今まで知らなかった植物が判って散歩が楽しくなりますとの声を聞くと続けていて良かったと思います。

20 年間一生懸命活動してきましたが、80 才を過ぎ肉体との戦いですが、素晴らしい仲間との繋がりや知りたいという好奇心がある限り、人生の設定に上書き保存したい気持ちもあります。

「吹田のみどりを次世代に」

樹木 ウォッチング

2班 遊上 眞一

幼木 生まれたての木や幼木は、成木とは 姿形が違いますね



キリ、顔よりも大きな葉です



カクレミノ、5深裂しています



アカメガシワ、赤い毛で葉を守る



ウルシ、どの葉も光りを受けられる形になっていますね



シナサワグルミ、成葉とは全然違う形ですね



シンジュ、半透明の葉



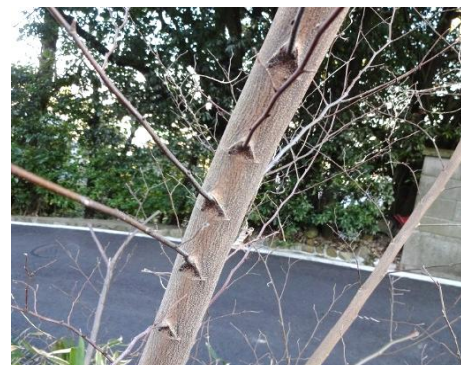
冷温帯 京都北山の八丁平では
テツカエデの実生がビッシリと



クリ、針状の花柱が目立つ雌花と
右下に雄花



イヌエンジュの芽吹き、きれい



ムクノキ、枝の付き方が面白いです



シンジュの芽吹き カラフル



マツ、1年間の伸びが分かります

シャクヤク

1 班 木邨 圭子



『ワタシ、キレイ?』



4 班 藤原 雄平

無心になって描いていると、突然、声を掛けられた（様な気がした）。

無論、人形が話すはずはないのだが、しばしの間、奇妙な雰囲気包まれた。

その時、聞いた言葉をそのまま画題としました。

私もまたうつ ??



落ち着かない



summer

夕立のあと



2班 山上 恵子

3班 宮澤 富美雄

短歌

- ・ 宗教は人を救うと言いつつも世界のあちこち宗教戦争
- ・ 水を飲み汗をかく事繰り返し嘗めれば少し塩の味する

俳句

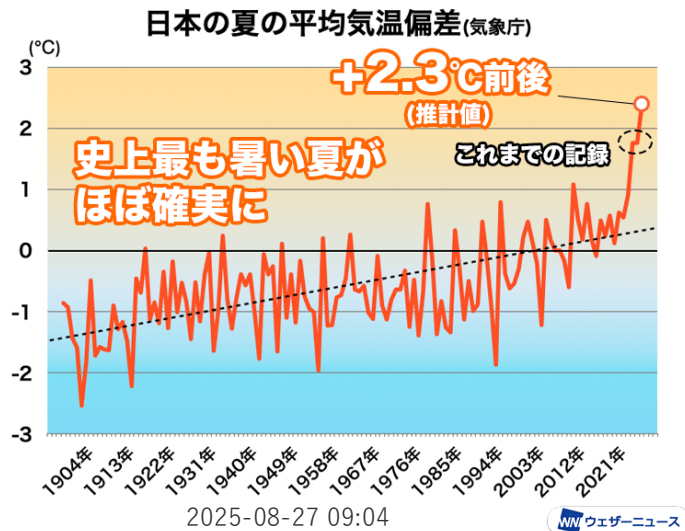
- ・ 閉め切りて一人部屋夜涼の灯
- ・ 「暑いですね」見知らぬ人に声かけて
- ・ 判断力までも狂うてゐる暑さ

川柳

- ・ 地面師のあの手この手は一級品
- ・ 生きていく時間たっぷり有った筈
- ・ 曖昧な質問あいまいに答えてる

川柳

- ・ バイキング食の細さが恨めしい
- ・ 若者の明るい笑いに嫉妬する
- ・ 青空の向こうにあるや過ぎし日々
- ・ スマホ病ネコも杓子もアリンコも
- ・ 異様でしょ電車の中は皆スマホ



おかげさまで無事66号を発行することができました。投稿依頼に快く応じていただいた皆様ありがとうございます。

前号に引き続き仲間たちの近況報告が昨年度までの半分となっています。

仲間の日常の様子がわかる記事が減り物足りなくなったという声も複数いただいています。自由投稿など奮ってお願いしたいところですが、割り当てられもしないのに自ら進んでというのはハードルが高いようです。さて、どうしたものか・・・。

引き続き皆様のご意見をお寄せください。

⇒ tsukasha@mac.com

広報委員会